

## 2017 年 World Sailing Conference

### レポート

齋藤愛子

World Sailing (国際セーリング連盟、以下 WS) の年次会議が 11 月 4 日から 12 日の 8 日間に渡り、メキシコのプエルト・バラルタで開催された。2016 年の会議で Kim Anderson 新会長が選出された後、執行役員 (Board Member、以下 Board) がそれぞれの担当につき、各委員会も 4 年ごとの更新であらたなメンバーが選出された。加えて、WS は 7 月から 8 月にかけて事務所をサザンプトンからロンドンへ移設し、この移動に伴って半分以上のスタッフが入れ替わり、2017 年会議は、Who's who で、役割は何? というフレッシュな環境で始まった。

日本からこの 4 年サイクルで委員会メンバーに選出されているのは：

大谷たかを (カウンシル、イベント委員会) 一欠席 (怪我・手術のため)

カウンシルは入部さんが代理で出席

小林昇 (Oceanic & Offshore: 外洋委員会)

増田開 (ルールサブコミッティー)

柴沼克己 (Regional Games 委員会)

須藤正和 (パラセーリング委員会)

齋藤愛子 (コーチコミッション)

AGM (MNA からの代表、今回は Tokyo 2020 の入部さん)

委員会メンバーは 2016 年の会議の前に Member of National Authority (以下、MNA、日本では JSAF) から WS へ推薦をし、推薦されたメンバーの中から委員長、副委員長を Board が指名、メンバーを選出する手順。欧州に固まらず、全体のバランスをとることや、名前だけでなく実際に現場へでて動くメンバーを選んでいる。

各委員会の役割は WS の Regulation、決められている規定に従って運営がされ、問題点、改善点、新しい試みを取り入れていくために、8 月 1 日までに締め切りの各国からのサブミッション (提案書) を審議することが最大の仕事となる。サブコミッティーは専門性の高い分野を専門の小委員会で、細かく集中して検討した結果を親委員会へ報告、親委員会でさらに検討をした結果をカウンシルへ報告、審議となる。私は委員会ではなく、コミッションというグループに所属で、コミッションはエグゼクティブ (ボードメンバー、各委員会の委員長で形成するグループ) に直接報告をする。

8 月にサブミッションが集まると内容に応じて各委員会に振り分けられ、各委員会で事前に

検討 (e-mail, Skype 等を含む) され、11月の年次会議での Agenda (議事・議案) が決定される。各委員会はカウンスル会議に先立ち、スケジュールで定められた日程 (ほぼ1日) で会議を行う。近年は e-mail とネット会議を活用し、必要なことは事前に各委員会内でも短時間で準備ができるようになったものの、とにかく目を通す書類の多さには閉口する。

今回は事務局スタッフも委員会メンバーも新しいこともあり、いろいろと手際がよくないところも多々あったが、新しいからこそ、こういった WS 会議のしくみが全体に説明される場もあり、人も紹介され、これから東京が終わる 2020 年までこのメンバーで進んでいくわけである。

### コーチコミッション (CoC) の報告

委員長 : Michele Marchesini (ITA) 副委員長 : Aiko Saito (JPN)

メンバー : George Fundak (AUT)、Anastasia Chernova (RUS)、

Victor Kovalenko (AUS) - 今回は欠席

WS 会議の一番初日に始まる会議で、下記議題で意見をまとめ委員長から Board へ報告をした。



今回は事務局から Alastair Fox (イベント責任者) だけでなく、Antonio de la Madrid (SWC、ユース五輪担当) Matt Weaton (エントリー担当) と新メンバーの Michael Downing (写真左) と Pedro Rodrigues (右) が勢ぞろいで会議に加わった。Michael はオリンピック担当なので、今後、Alastair と共に東京 2020、江の島へ準備に来るようになる。34 歳、オーストラリアのパース出身。2011 年パースワールド

ドでは運営メンバーで、その後、Swiss Timing としてロンドン、リオの五輪でもセーリング会場で運営に携わった。

議事 :

#### 1) 安全

ナクラ 17 の事故の検証報告の内容から、今後必要なコーチの安全対策を検討した。コーチボートの First Aide キット、救助、陸上との連携などのガイドラインを作成する。11 月中にドラフトを作成する。

#### 2) 各大会でのコーチボート数の削減

オリンピック、WS 世界選手権、各世界選手権、ジュニアクラス世界選手権などのカテ

ゴリー別にコーチボートの現状の数（1人1艇体制）から2030年までに数を半減（Sustainability）。ステップとして、東京五輪で江の島のキャパシティーが小さいことから、コーチ達が役割を果たせることを踏まえて、数を減らす案を作成する。今回はドラフト案でオリンピック、WS世界選手権用に作成。今後のWS主催大会で実験しながら機能する方法を各国コーチと話し合いながら東京2020でリオの260艇から180艇以下に減らすことを目標にする。フルエントリーから1艇参加までの60~70か国が痛み分けをしながらコーチの役割を果たせる体制は簡単ではない。これまではコーチの仕事のみを優先してきた結果がリオの260艇であり、2000年から導入されたコーチボートの存在が飽和状態を迎え、本来エコスポーツであるセーリングがエンジン艇が参加艇と同数混在する大会でマイナス要素が増大している。主催者の負担も大きく、早急に改善するために、コーチコミッションにとってはもろ刃の刃状態に取り組んでいる。

3) コーチのエントリー

各大会でのコーチエントリーが当日になって50艇以上増えるケースが多いので、エントリーの締め切りを早めることを提案。また、ジュニア大会では家族や友人がルール無視でサポートをすることが多々あるため、コーチのWSへの登録制度を検討する。

4) レースオフィシャル委員会：Jan Stagg 委員長から、スタート時のコーチ達が撮影するビデオのマナーを問われ、ライン延長にボートが並ぶのはレースオフィシャルには運営しにくい点もあるし、リコール艇と混乱を起こすことも少なくない。改善策として、レース本部艇にカメラを載せてラインを撮影する試みをしたがうまくいかない。いい案がないか。撮影の仕方に工夫が必要であり、撮影した映像をコーチ、選手が陸ですぐに確認できるプラットフォームが必要。撮影と映像処理にかかるマンパワー、GPSトラッキングとの連携など、可能性を模索していく。コーチは現場で練習レースを利用して運営艇での撮影方法を考える。

5) ルール改定：John Dore 委員長から、ルール改定でサポートスタッフの違反にペナルティーをつけることができるようにするが、改善案が3つあり、どれが適切か、CoCの意見を提案した。

6) オリンピックフォーマットやQuota(国枠)を決めるイベント委員会メンバー、選手の代表であるアスリートコミッションとも詳細意見を交換し、IOCからのコメントに対してリアクションしなければならないエリアがどこなのかを改善すべきだと、また選手が望むことも無視してはならない。

7) オリンピック、WS世界選手権にかかわる詳細での改善案については、CoCとWSスタッフのイベントマネジャーのAlastair Foxに報告をする。今後は江の島で発生するFOP関連の問題をコーチとどう解決するか、五輪本番でのサポートボートレギュレーションを検討を始める。

半日の予定では会議のすべては終わらず、イベント委員会が始まるまでに何度も集まり、他の委員会メンバーと合流しての打合せも行った。会議だけでなく、こういったすり合わせは重要である。今年、日本を訪れた各国のチームリーダー達に印象や改善点を聞いてみたので、別途まとめて報告したい。来年からは半日ではなく、1日の会議にすることを提案する。CoCは審議に票はもてない。従って、各委員会の話し合いの場で現場の意見をあげておくことが重要である。

サブコミッティー、各委員会へオブザーバーで参加したものの要点をまとめて報告する。



### ユース小委員会

- ユースオリンピックの年齢が16～18歳に広がり、Techno293+のアジアから予選が始まった。初のKiteはTwin Tipクラスで、スラロームコースを導入、ペナルティー判定にジュリーはジェットスキーでレフェリーを務める。アジア選手権(THA)と世界選手権(CHN)が予選になる。2018年8月23日がエントリーの締め切り。
- ユースワールド2017は中国の三亞。イスラエルのキャンセルから始まり、7月が12月に変更となり、チャーター艇の準備とクラス世界選手権が12月に設定されていることとのバランスで問題が多いが、今回は特別ということで勘弁してほしい三亞は台風の影響でスロープの工事が遅れているが、12月までには間に合う。420級と29er級は男女でシェア、RSXとレーザーは個々に艇がチャーターされる。ナクラ15の供給元は今回の急な日程と場所の変更で赤字。節約だけでは足りず、スポンサー探している。4海面、62か国が参加。トラッキング、SAP、ブロードキャストはユースワールドのパッケージで今後展開する。Nations Trophyのしくみを今後変更したく、検討する。
- Emerging Nations Programme (ENP)では、コーチの指導と選手の指導を合わせて行い、地域活動でのコーチの増員を目指した。トラッキングを使って効果的に指導できるもの

の、その後につかず、FB等を利用して継続できるように工夫したい。2018年の予算が削減されている。

### Olympic Class 小委員会

- ・今年親委員会の World Sailing Class 委員会のほうが2日目、オリンピッククラスがその後ということで、順番が逆になり不都合が生じた。
- ・WS事務局のオリンピック担当に Michael Dunning が新任でついたので、Aarhus 2018、Tokyo 2020 へ向けての準備を担当する。
- ・オリンピック種目の Equipment、フォーマット、予選、次期への戦略とビジョンを構築する Working Party (WP) **Strategy 2024** が9月にスタートし、来年5月の Mid Year Meeting までに案を作成する。マルセイユ、ロスまでの中長期を視野に入れて種目、フォーマットを考える。
- ・WS イベント担当の Antonio de la Madrid からユースと **Sailing World Cup (SWC)** の2018年以降の計画について説明があり、SWC は2017-2020 の戦略が発表され、2020年のファイナルは6月江の島となっている。WS の現状の価値が話し合われた。2018年江の島はオリンピックテストイベントを兼ねるため、Quota は特別になる。2019年シリーズについては3パターンを検討し、来年5月のミッドイヤー会議で決定する。
- ・**World Ranking System** について、世界選手権は2回、100ポイントのイベントを増やすが、大会の質を考慮に入れる。最低エントリー数、成績の報告、集計はWS事務局の Matt が担当する。
- ・WS 世界選手権 (Aarhus 2018) はオリンピックフォーマットに従ってレースを行う。ハーバー会場は7月19日からオープンする。レーザーの配布は7月24日から。

### Race Officials レースオフィシャル委員会

レースオフィシャル委員会は会議場をオープンにしてオブザーバーが参加できる時間帯とメンバーだけでディスカッションをするクローズの時間帯とに分かれているため、前半だけオブザーバーで参加した。

- ・スタートラインの見通しについて、ビデオとトラッキングの今後の可能性を検討する。
- ・WS のイベントではレースオフィシャルのキットを配布して、ウェアを揃えるようにする。まだ ISAF ロゴの服でジャッジや計測をするメンバーが多いので、2018年中にはWS イベントは少なくとも揃うようにする。
- ・ハイスピードルールが適用されるようになったら、運営にも理解が必要。レースマネジメントマニュアルも新しい部分が必要。
- ・IJ、ITD、IRO を増やす必要があり、特に若いメンバーの登録を増やしたい。アンパイアも数が少なく、メダルレース、マッチレース、チームレースではやりくりをしている。
- ・レース運営について、質問を受ける専用のサイトができないか。

- ・トラッキング (SAP) や GPS の仕組みをレース運営にも取り込めないか。AC ではすでに TODO リストができるくらい、アプリが開発されていた。予定から報告までを管理できるプラットフォームをプロジェクトとしてアプローチできないか。
- ・AC 35 の大会での審判の仕組みをプログラムを開発した Richard より説明があった。AC ゆえに高額なプログラムではあるものの、センサーGPS は 2 c m の誤差まで進歩しており、1 基 70 万円相当の機械がいまでは携帯 1 個のハイエンド機種でまかなえるという。今後の進歩に期待する。機材が安価に手に入るようになれば、導入も可能になる。
- ・Aarhus 2018 でどこまでライブデーターをルールの確認やプロテストチェックに使えるか。東京ではどうか。SAP や SwissTiming、SunsetVine や OBS を巻き込んでの検討が必要である。

### Equipment Committee

- ・ナクラ 17 の事故の検証から、道具の安全さで検討が必要。各エリアに分けてリストアップし、1 月 15 日を目標にまとめる。USA セーラーの事故ではイタリアチームのコーチの適切な応急処置と艇に備えていた FirstAide に助けられた。主催場所への注意として、事故は練習期間に起こったことも今後の準備として考える項目に入れる。
- ・セーラーの安全のための道具としてヘルメットがあるが、仕様がまばらなので、安全基準、ISO を検討する。重たいヘルメットで首の怪我がでていることも考慮する。現状では EON 製がセーリングには適している。
- ・キールボートのスピンホイストでスピンを縛る紐やゴム輪が海にごみとして残ることが懸念され、今後はごみ捨ての違反对象になる。チャック付きのソックスを利用奨励する。
- ・エボルーション  
RSX : セールグラフィクス、バテンテンショナーなどマイナーチェンジ  
フィン は構造変更→安価へつながる。マストの均一テストをオンラインで集積  
MK3 フィン (黒色、テスト中) はより均一な構造のを追求して製造方法を変更したもののだが、テストの結果は良好。クラスルールで使用できるイベントを決める。(蒲郡は禁止大会であった) 2018 年 1 月 18 日より均一テストをしたマストが販売される。  
470 : マストを 3 PC のカーボンに変更し、2020 年 9 月から導入予定。現状タイプマストも利用できるが、利用延長のルールについては検討中。
- ・2024 年以降の艇の選択はイベントが決まってから、必要があれば行う。
- ・ERS はクラスルールとの差異を整理してまとめる。
- ・IHC (インハウス) は担当が Carlos に代わる。2017 年は 13000 ステッカーを配布した。現在、国際モス級が導入を検討している。

### イベント委員会

- ・6 月に Santander で第 1 回を開催しているので、今年度は 2 回目。

- SWC のイベントストラテジーをまとめた。過密なスケジュールの調整、セーリングワールドカップの価値を再度検討。
- ユースオリンピックのナクラ 1 5 はフォイリングしないタイプにする。
- ランキングでは各大会の NOR, スケジュール、成績を WS 事務局の Matt へ送る。クルーとスキッパーが分裂しても両方を継続できるようにする。
- 2022 年 WS 世界選手権については 3 月 1 日が Bid の締め切り、5 月の MYM で発表する。現在、5 か所から招致がでている。
- オリンピックフォーマットについても議論が出たが、Winner Takes All 式（最終日に決勝トーナメントを行う）は RSX, Finn で実際にテストされたものの、1 日で実施するには難しい条件が多く、RSX は断念した。Finn, Laser, Radial、470 男女はリオと同じフォーマット、RSX 男女はメダルレースにプレーニングコンディションだったらリーチングスタートコースを導入する。このテストは江の島で行われ、賛同を得たくみであった。スキフ 2 クラスは 3 回のメダルレースを希望し、昨年のカウンシルで承認されたから、そのまま続けるという意見と、今年、ほとんどの大会で中途半端にしか実施できなかったフォーマットだから自然条件が整わないと難しい。イベント委員会の中では 1 票差で残った案だが、カウンシルで反対がでたら、他種目と同じにするというバックアップ付きで決定した。ナクラ 1 7 は同じフォーマットを使いながらも、レースコースは今後、検討する。
- オリンピック枠についても 2 案で討議の後、推薦案を決定した。

#### カウンシルミーティング

会長、ボードメンバーからの報告に始まり、各委員会の委員長が報告を行いながら必要なサブミッションの検討と議決が行われた。CEO からの報告で、会計報告が不足な部分があり、詳細の説明をするよう質問があった。2017 年はサザンプトンからロンドンへ事務所が移転し、スタッフが激減、新スタッフの雇用と合わせて経費の計上が複雑で、わかりにくかった。

#### 以下、項目別の要点

- **IF ガバナンス**の評価は夏季オリンピック競技の中で B ランクの最上位だったので、次は A ランクへ上がれるようにコミッションを形成する。
- **Anti-Trust Policy** については今回否決されたサブミッション (13, 14, 17, 18) と、5 月のミーティングに 15 と 16 は持ち越しになった。「モノポリー」の定義はクラスによって異なる。ロシアから昨年提案された 24-16 は否決された。

#### シンポジウム



カウンシルの前半にシンポジウムがあり、Kim 会長のワールドセーリングの改革の中に、新しい発想を見出すこと、セーリングが魅力的になるためにトップとボトムの両方に目を向け、オリンピッククラスばかりにとらわれない WS を作りたいという意図がみえた。セーリングの未来がどこに向かっていくのか、の提言であった。

- ① E-Sport コンピューターゲームでスポーツのゲームに参戦する E-sport にセーリングを入れる案。マーケティング担当の Hugh Chambers から説明があった。実際に他のスポーツを E-sport で楽しんでいるメンバーにはわかりやすいが、Paris 2024 を視野に入れての取組となる。
- ② Bermuda での学校の授業にセーリングを取り入れた例の紹介。
- ③ Americas Cup の GPS とジャッジのしくみ、AC35 の取組を紹介。（レース運営へ導入することを意識したプレゼンテーション）
- ④ OP プロ ニュージーランドの OP 改造で利用するキットの紹介。

## ハイライト

### **Sustainability 2030**

- ・ WS 事務局の担当は Dan Reading。6 セクションに分けた 59 のターゲットで 2030 年へむけて、UN と IOC の目標を達成するために、コミッションを設置した。
- ・ ほぼ全委員会、コミッションミーティングに Dan が直接説明に入った。今後の WS の活動の中で重要な位置を占める。

### **Tokyo 2020**

- ・ オリンピックフォーマット (Format) は全クラス同じ、レース数は RSX 男女、ナクラ、スキフ男女の 5 クラスは 12 レース+M レース、470 男女、レーザ男、ラジアル女、フィン男は 10 レース+M レース。スキフの M シリーズ 3 レース案はイベント委員会では僅差で通ったものの、カウンシルでは僅差で逆転。最後はアスリートファーストの考え方で、スキフのトップクラスのセーラー達がアスリートコミッションに、メダルレースは 1 回で決着をつけることを希望するという意志を示したことが大きい。
- ・ 国枠予選 (Quota) は 2018 年、2019 年の世界選手権、各大陸別予選で、日程は 2018 年 2 月までに世界選手権以外は発表する。

Option 1; Like Rio, but with 350 Quota	2018 WC	2018 Asian Games	2019 Pan Am Games	2019 WC	Europe	North America	South America	Africa	Asia	Oceania	Host	Tripartite	Total Boats	Total Athletes
<b>Men</b>														
Windsurfer	10	0	0	8	1	1	1	1	1	1	1	0	25	25
One Person Dinghy	14	1	2	5	2	1	1	2	2	2	1	2	35	35
One Person Dinghy (Heavyweight)	8	0	0	4	1	1	1	1	1	1	1	0	19	19
Two Person Dinghy	8	0	0	4	1	1	1	1	1	1	1	0	19	38
Skiff	8	0	0	4	1	1	1	1	1	1	1	0	19	38
<b>Women</b>														
Windsurfer	11	0	0	9	1	1	1	1	1	1	1	0	27	27
One Person Dinghy	18	1	2	10	2	1	1	2	2	2	1	2	44	44
Two Person Dinghy	8	0	0	6	1	1	1	1	1	1	1	0	21	42
Skiff	8	0	0	6	1	1	1	1	1	1	1	0	21	42
<b>Mixed</b>														
Multihull	8	0	0	5	1	1	1	1	1	1	1	0	20	40
													250	350

- ・この Quota でわかるように、女子と男子の数を均等にするため、ラジアル女子と RSX 女子が大幅に増えている。この枠を十分に超える数の国が予選に出場できるように各国、各クラスともに女子の強化を確実に実施してほしい。

#### Youth World の今後のスケジュール

2017 年 中国・三亞 12 月 9 日～16 日

2018 年 アメリカ・コーポスクリスティアー 7 月 14 日～21 日

2019 年 ポーランド・ギディア 7 月 13 日～20 日

2020 年と 2021 年については艇種の決定をおえてから 2018 年 2 月に決定する。

#### Aarhus 2018

- ・大会会場はシャトルが走るが自転車を持参することを勧める。
- ・駐車券は配布するが 1 か国につき 4～5 枚程度と考えている。
- ・会場は 7 月 19 日にオープン、レーザーの配給は 7 月 24 日から始まる。

#### Para World

- ・2018 年の日程は 9 月 16 日～22 日、アメリカの Sheboygan (ミシガン湖の西岸、シカゴの北) で、2.4 とハンザ 303、ともう 1 種目の予定。
- ・パラリンピックへの復活について、申請を提出する準備中。決定は 2019 年 2 月なので、2018 年のパラセーリングワールドでも国数を増加することが重要。キールを上回るためにはチャーター艇の用意が必要。GAC & Pinder が輸送を支援する。

### **Youth Olympic Game (YOG)**

- ・ IOC が YOG に期待することはイノベーション、新しいことに着手すること。
- ・ 2022 年はイベント数を減らし、参加数を増やす。エリート、ユニバーサリティーがキーポイントになる。

### **Sailing World Cup (SWC)**

- ・ 2018 年ファイナルはマルセイユに決定。6 月 9 日終了か 6 月 16 日終了かで日程は 11 月中には決定する。2019 年ヨーロッパラウンドとファイナルについては来年 2 月までに決める。
- ・ ワールドカップに対する WS の支出を明確にしろとの意見がでた。
- ・ パリ 2024 とロス 2028 を視野に入れて 2021 年からの SWC を計画する。

### **Paris 2024**

8 月にマルセイユで実施。地中海の海風で 12-15kt を予想している。選手村はハーバーから徒歩 10 分。現在のハイパフォーマンスセンター周辺を再開発してベースにする。2024 年以降のイベント、クラス等は 2018 年ミッドイヤー会議にて討議される。今回でしていたサブミッションで 2024 年以降についてはすべて先送りになっていた。

### **LA2028**

ロングビーチが会場となり、10-14kt を想定。選手村からはバスで 40 分。

### **Rolex Sailor of the Year**

女性部門はブラジルの FX チームが来られなかったものの残りの 3 名は舞台に揃い、オリンピックの後に故障をしながらも、2017 年に世界選手権とヨーロッパ選手権の両タイトルを獲得した Marit Bouwmeester (NED) (レーザーラジアル) が選ばれた。Marit はこれまで 2 回ノミネートされながらも Sailor of the Year は初受賞。故障がモチベーションをあげてくれたことや、故障があったからこそ違う角度からオリンピックキャンペーンを見られるようになり、それが集中して 2 大会を戦えた原動力という。男性部門はチームニュージーランドのヘルムスマンのピーター・バーリング。昨年はオリンピックイヤーで、アルゼンチンのサンチアゴ・ランゲ選手が授与されて盛りあがったが、今年はノミネートされた男性陣が 1 名も登場せず、あらかじめ撮影された VTR で全員を紹介というしらけたムードになってしまった。ピーターは 3 度目の受賞であり、今は Volvo Ocean Race に参加中。

### **今後の会議日程**

2018 年 Mid Year Meeting 5 月 12 日～15 日 London

2018 年 Annual Conference 10 月 27 日～11 月 4 日 Sarasota, USA

2019 年 Bermuda

Annual Conference については「会議だから、リゾートではなく、周辺に安価なホテルがあり、会議にふさわしい場所でやること」というサブミッションが出ていたが、Kim 会長は、このサブミッションは否決し、ボードメンバーからもっと異なる内容で、参加者の負担が少なく会議ができるように提案して変えていきたいという意見が出された。もう、Knightsbridge のことを覚えている人は少なくなってきたと思うが、また London に年次会議が戻る可能性がみえてきた。

会議では東京 2020 でのフォーマットが決まり、国枠予選の配分が決まった。今、世界が日本に期待しているのは、オリンピックでの完璧な運営である。準備がまだ追い付いていない東京に懸念を持つ WS だが、新しくオリンピック担当になった Michel Downing が 12 月、1 月と来日して遅延している点に着手していく。